

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）  
 タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	佐賀大学
事業名	自律持続型高度学術研究・臨床教育拠点の構築 —屋根瓦式研究教育の早期導入による循環型人材育成—
事業責任者	佐賀大学副医学部長・教授 小田 康友
事業の概要	
<p>本事業は心房細動を中心とする循環器病 3,000 例の遺伝情報や生体試料に基づく世界最大規模のマルチオミクスデータを用いた本学主導の臨床研究であり、ゲノム医療の社会実装を目指す。この貴重な生体情報を用いたバイオインフォマティクス解析環境を学内に整備し、医学生を雇用し、早期からの研究マインド・技能の醸成に努め、大学院生及び研究支援者の雇用により屋根瓦式研究体制を構築する。診療参加型実習の充実のために、基本的診療技能を「身につける」過程を強化し、模擬的診療、基本的診療、一般診療、専門診療、高度先進医療の各段階において技能を「使いこなす」訓練を行う系統的な臨床教育課程、及び教育専任助教や看護師、医学生を登用した教育支援体制を全体的に構築する。併せて次世代教育者となる医学生の教育能力養成プログラムを開発する。これにより学術研究・臨床教育の循環型人材育成による自立かつ持続的な地域拠点の構築を目指す。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○心房からの生検データ等の独自のサンプルを有しており、世界的にも新規なプロジェクトである。</p> <p>○臨床研究医から医学生、大学院生とサポート対象が広範囲で医学生に高度なレベルまでの研究資質を期待している。SA の医学生にバイオインフォマティクスの解析や、AI による解析をさせるのは魅力的である。</p> <p>○研究時間の維持、大学院生獲得は、実現可能な目標である。</p> <p>○現時点での課題を明確に記載し、その対策を採っており、心房細動データベースの拠点形成が期待できる。</p> <p>○タスクシフトも有用であり、教育、研究面双方において分担が検討されている。</p> <p>○既存の体制が活用できており、実現可能な体制である。</p> <p>○スキルトレーナーの継続計画ができています。</p> <p>●データは取れると思うが、心房筋試料で（治療に結びつく）Af の本体に迫れるか疑義がある。</p> <p>●これらのデータを利用して、どのように国際的な研究へ持っていくのか道筋が見えない。</p> <p>●循環器分野以外への波及効果も期待したい。</p> <p>●医学生へのバイオインフォマティクスや AI の教育において、大学院生を RA に採用するというところであるが、大学院生のレベルでバイオインフォマティクスや AI の指導を連携機関なく、今の体制で行うことができるか、教育体制に懸念が残る。</p> <p>●臨床研究医の研究総時間の変化について客観性を示すことが望ましい。</p> <p>●目標検体数を考慮し、学内にサーバーを立ち上げることの妥当性について検討が望ましい。</p> <p>●医学生の医行為などへの貢献度評価指標はどのように立てるのが不明確である。</p> <p>●マルチオミクス解析に必要な人員が十分であるか検討が望ましい。</p> <p>●研究項目等が増加すると相対的に医師の労働時間は向上し、大学病院以外の施設への負担が大きいのではないか。</p> <p>●心房細動のみに絞っての事業継続が可能か懸念が残る。</p>	